

第1章 医薬品に共通する特性と基本的な知識

問1

医薬品の本質に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 本来、医薬品は人体にとっては異物である。
- b 医薬品が人体に及ぼす作用は複雑、かつ、多岐に渡り、そのすべてが解明されているわけではない。
- c 人体に対して使用されない検査薬では、人の健康に影響を与えることはない。
- d 医薬品は、生命関連製品として有用性が認められたものであり、保健衛生上のリスクを伴うことはない。

1 (a、 b) 2 (a、 c) 3 (b、 d) 4 (c、 d)

問2

医薬品の本質に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品は、必要な情報が適切に伝達されることを通じて、購入者等が適切に使用することにより、初めてその役割を十分に発揮する。
- b 一般用医薬品には、添付文書や製品表示に必要な情報が記載されているため、一般の生活者が、添付文書等の内容を見れば、誤解を生じることはない。
- c 医薬品では、市販後にその有効性、安全性等の確認が行われる仕組みはない。
- d 医薬品は、製造販売業者による製品回収等の措置がなされることもあるので、医薬品の販売等を行う者においては、製造販売業者等からの情報に日頃から留意しておくことが重要である。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	正	誤	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	正	正	正	誤
5	誤	正	正	正

問3

医薬品の効き目や安全性に影響を与える要因に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 薬理作用とは、薬物が生体の生理機能に影響を与えることをいう。
- 2 医薬品を使用した場合に現れる反応のうち、好ましくないもの（有害事象）を一般に副作用という。
- 3 医薬品の副作用は、薬理作用によるものとアレルギー（過敏反応）に大別される。
- 4 複数の疾病を有する人の場合、ある疾病のために使用された医薬品の作用が、別の疾病の症状を悪化させることはない。

問4

次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 免疫は、本来、細菌等が人体に取り込まれたとき、人体を防御するために生じる反応であるが、免疫機構が過敏に反応して、好ましくない症状が引き起こされることがある。
- b アレルギーは、一般的にあらゆる物質によって起こりうるものである。
- c 普段は医薬品を使用してアレルギーを起こしたことがない人であれば、病気等に対する抵抗力が低下している状態などの場合であっても、医薬品によるアレルギーを生じることはない。
- d アレルギーは、内服薬だけでなく外用薬でも引き起こされることがある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	誤	正	正	正
3	正	誤	正	正
4	正	正	誤	正
5	正	正	正	誤

問5

医薬品の副作用に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 医薬品の適正な使用が図られるためには、副作用が起きる仕組みや起こしやすい要因の認識、また、それらに影響を与える体質や体調等をあらかじめ把握することが重要である。
- b 医薬品は、十分注意して適正に使用すれば、副作用を生じることはない。
- c 一般用医薬品は、軽度な疾病に伴う症状の改善等を図るためのものであるため、副作用の兆候が現れたときであってもその使用を継続することが重要である。
- d 一般用医薬品の副作用は、直ちに明確な自覚症状として現れないこともある。

1 (a、 b) 2 (b、 c) 3 (c、 d) 4 (a、 d)

問6

医薬品の販売等に従事する専門家が、一般用医薬品の不適正な使用を避けるために、購入者等に対して行う説明として、正しいものはどれか。

- 1 一般用医薬品を使用して腹痛を一時的に緩和するだけの対処を漫然と続けていたので、医療機関を受診するよう伝える。
- 2 小児への使用を避けるべき医薬品であるが、症状を十分に聴いた上で、大人用のものを半分にして飲ませてもよいと伝える。
- 3 1回1錠の用量が定められた医薬品であったが、症状を早く改善させる必要があったので、他の医薬品を使用していないことを確認した上で、1回2錠を使用するよう伝える。
- 4 医薬品を使用する前に添付文書や製品表示を読む必要はないと伝える。

問7

他の医薬品や食品との相互作用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品の相互作用では、作用が増強すれば、副作用が発生しやすくなる等の問題があるが、作用が減弱する分にあっては、特に不都合は生じない。
- b 相互作用には、医薬品が吸収、代謝（体内で化学的に変化すること）、分布又は排泄される過程で起こるものと、医薬品が薬理作用をもたらす部位において起こるものがある。
- c 一般用医薬品は、一つの医薬品の中に作用の異なる複数の成分を組み合わせ含んでいる（配合される）ことが多く、他の医薬品と併用した場合に、同様な作用を持つ成分が重複することがある。
- d 酒類（アルコール）は、医薬品の吸収や代謝に影響を与えることがある。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	正	誤	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	正	正	正	誤
5	誤	正	正	正

問8

食品中に医薬品の成分と同じ成分が存在することがある。カフェインを主成分とする医薬品と一緒に摂取すると、一般的に、カフェインの過剰摂取となるおそれのある食品はどれか。

- 1 卵
- 2 コーヒー
- 3 ビール
- 4 ワイン
- 5 納豆

問9

医薬品の使用上の注意等において、目安として用いられる年齢区分に関する記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

乳児とは(a)、幼児とは(b)、小児とは(c)をいう。

	a	b	c
1	1歳未満	5歳未満	12歳未満
2	1歳未満	7歳未満	12歳未満
3	1歳未満	7歳未満	15歳未満
4	3歳未満	5歳未満	12歳未満
5	3歳未満	7歳未満	15歳未満

問10

次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 小児は、医薬品を受けつける生理機能が未発達であるため、その使用に際して特に配慮が必要である。
- b 乳児は、医薬品の影響を受けにくく、また状態が急変することは少ないので、医師の診療を受けるよりも乳児向けの用法用量が設定された一般用医薬品を使用することが望ましい。
- c 乳幼児による医薬品の誤飲・誤用事故の場合、一般用医薬品であれば、一般用医薬品の販売に従事する者が処置し、関係機関の専門家に相談する必要はない。
- d 小児の誤飲・誤用事故を未然に防止するには、家庭内において、小児が容易に手に取れる場所等に医薬品を置かないようにすることが重要である。

1 (a、 b) 2 (b、 c) 3 (c、 d) 4 (a、 d)

問11

小児に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 小児は、大人と比べて身体の大きさに対して腸が短く、服用した医薬品の吸収率が低い。
- 2 小児は、吸収されて循環血液中に移行した医薬品の成分が脳に達しやすいため、中枢神経系に影響を与える医薬品で副作用を起こしやすい。
- 3 小児では、医薬品の成分の代謝・排泄に時間がかかり、作用が強く出過ぎたり、副作用がより強く出ることがある。
- 4 医薬品によっては、形状等が小児向けに作られていないため、小児に対して使用しないことなどの注意を促している場合もある。

問12

高齢者に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品の使用上の注意等において高齢者という場合には、おおよその目安として75歳以上を指す。
- b 一般用医薬品の販売等に際しては、実際にその医薬品を使用する高齢者の個々の状況に応じて、適切に情報提供や相談対応がなされることが重要である。
- c 高齢者は、生理機能の衰えのほか、^{のど}喉の筋肉が衰えて飲食物を飲み込む力が弱まっている（^{えん}嚥下障害）場合があり、内服薬を使用する際に^{のど}喉に詰ませやすい。
- d 高齢者は、持病（基礎疾患）を抱えていることが多いが、一般用医薬品の使用によって基礎疾患の症状が悪化したり、治療の妨げとなることはない。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	誤	誤

問13

妊娠前後の一定期間に通常の用量を超えて摂取すると、胎児に先天異常を起こす危険性が高まるとされているものはどれか。

- 1 ビタミンA含有製剤
- 2 ビタミンB₁含有製剤
- 3 ビタミンB₆含有製剤
- 4 ビタミンB₁₂含有製剤
- 5 ビタミンC含有製剤

問14

プラセボ効果に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 医薬品を使用したとき、目的とした薬理作用が生じることをプラセボ効果という。
- b プラセボ効果は、条件付けによる生体反応等が関与して生じると考えられている。
- c プラセボ効果によってもたらされる反応や変化には、望ましいもの（効果）と不都合なもの（副作用）とがある。
- d プラセボ効果は、客観的に測定可能な変化として確実に現れるものである。

- 1 (a、 b) 2 (b、 c) 3 (c、 d) 4 (a、 d)

問15

医薬品の品質に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 医薬品は、高温や多湿、光（紫外線）等によって品質の劣化（変質・変敗）を起こすことはない。
- b 医薬品が保管・陳列される場所については、清潔性が保たれるよう留意される必要がある。
- c 医薬品は、その一部のみが変質した物質から成っている場合には、販売してもよい。
- d 一般用医薬品は、家庭における常備薬として購入されることも多いことから、表示されている使用期限から十分な余裕をもって販売等がなされることが重要である。

1（a、b） 2（a、c） 3（b、d） 4（c、d）

問16

薬事法第25条第1項に規定されている一般用医薬品の定義に関する記述について、（ ）
内に入れるべき正しい字句はどれか。

医薬品のうち、その効能及び効果において人体に対する作用が著しくないものであって、薬剤師その他の医薬関係者から提供された情報に基づく（ ）の選択により使用されることが目的とされているもの

- 1 医薬品販売業者
- 2 需要者
- 3 医療機関
- 4 市町村
- 5 登録販売者

問17

セルフメディケーションに関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a セルフメディケーションとは、生活者が、医師等の専門家による適切なアドバイスの下、医療用医薬品を利用する考え方である。
- b セルフメディケーションの主役は一般の生活者である。
- c 登録販売者は、セルフメディケーションを支援するため、常に医薬品の販売に結びつける情報提供をしなければならない。
- d 世界保健機関（WHO）によれば、セルフメディケーションとは、「自分自身の健康に責任を持ち、軽度な身体の不調は自分で手当てする」こととされている。

1 (a、 b) 2 (a、 c) 3 (b、 d) 4 (c、 d)

問18

医薬品の販売等に従事する専門家が、購入者から確認しておきたい基本的なポイントに関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a その医薬品を使用するのは情報提供を受けている当人か、又はその家族等が想定されるのか。
- b その医薬品を使用する人として、小児や高齢者、妊婦等が想定されるのか。
- c その医薬品を使用する人が医療機関で治療を受けていないか。
- d その医薬品を使用する人が過去にアレルギーや医薬品による副作用等の経験があるか。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	誤	正	正	正
3	正	誤	正	正
4	正	正	誤	正
5	正	正	正	誤

問19

サリドマイドに関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 サリドマイド訴訟は、妊娠している女性がサリドマイド製剤を使用したことにより、出生児に四肢欠損等が発生したことに対する損害賠償訴訟である。
- 2 妊娠している女性がサリドマイド製剤を摂取した場合、サリドマイドは胎盤関門を通過して胎児に移行する。
- 3 日本では、1961年12月に西ドイツ（当時）の企業からの勧告を受け、直ちにサリドマイド製剤の販売停止及び回収措置がなされ、対応が早いとされた。
- 4 サリドマイドによる薬害事件は、我が国のみならず、世界的にも問題となったため、各国における副作用情報の収集体制の整備が図られることとなった。

問20

薬害に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 スモン訴訟は、整腸剤として販売されていたキノホルム製剤を使用したことにより、亜急性脊髄視神経症に罹患したことに対する損害賠償訴訟である。
- 2 HIV訴訟は、血友病患者が、プリオンが混入した原料血漿から製造された血液凝固因子製剤の投与を受けたことにより、HIVに感染したことに対する損害賠償訴訟である。
- 3 CJD訴訟は、脳外科手術等に用いられていたヒト乾燥硬膜を介してクロイツフェルト・ヤコブ病に罹患したことに対する損害賠償訴訟である。
- 4 一般用医薬品の販売等に従事する者は、薬害事件の歴史を十分に理解した上で、医薬品の情報提供等を通じて、医薬品の副作用等による健康被害の拡大防止に関する責務の一端を担っている。

第3章 主な医薬品とその作用

問21

かぜに関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 かぜの症状として、^{せき}咳、^{たん}痰等の呼吸器症状や発熱などのほか、悪心・^{おう}嘔吐、下痢等の消化器症状が現れることが多い。
- 2 季節や時期などによって、かぜの原因となるウイルスの種類は異なるが、いずれも上気道粘膜から感染して、それらの部位に急性の炎症を引き起こす。
- 3 かぜとよく似た症状が現れる疾患は、多数あり、急激な発熱を伴う場合や、症状が4日以上続く時又は悪化するような時は、かぜではない可能性が高い。
- 4 インフルエンザは、ウイルスの呼吸器感染によるものであるが、感染力が強く、また、重症化しやすいため、かぜとは区別して扱われる。

問22

一般用医薬品を購入するために来店した顧客から、以下のとおり症状等に関する訴えがあった。この顧客への対応に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- ・顧客の夫（42歳）と子供（10歳）がかぜをひいたとのこと。
 - ・かぜの症状は、2名とも、発熱、^{いん}咽頭痛のほか、^{せき}咳が出ている。
 - ・医療機関への受診及び他の医薬品の服用はしていない。
 - ・かぜをひいている2名とも服用できる薬が欲しい（購入したい医薬品は1種類のみ）。
- a アスピリンを含む医薬品を購入しようとしたので、アスピリンを含む一般用医薬品は、顧客の子供の年齢では、いかなる場合も使用しないこととなっている旨を説明した。
 - b ^{いん}咽頭痛があり、のどに炎症がある様子であったので、解熱鎮痛作用のほか、抗炎症作用のあるアセトアミノフェンを含む医薬品をすすめた。
 - c ^{せき}咳を抑える成分が配合された医薬品を購入したいとのことであったので、リン酸ジヒドロコデインを含む医薬品であれば、小児でも服用できるものがある旨を説明した。
 - d かぜのひき始めにおける諸症状、頭痛、肩こり、筋肉痛、手足や肩の痛みに適するとされている^{しょうさい ことう}小柴胡湯の漢方処方製剤をすすめた。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	正	誤	誤
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤

問 23

次の記述により示される医薬品成分として、正しいものはどれか。

たんぱく質分解酵素であり、体内で産生される炎症物質を分解する作用のほか、炎症を生じた組織において沈着する物質を分解して、炎症浸出物の排出を促し、炎症による腫れを和らげると考えられている。

また、フィブリノゲン等を分解する作用もあるため、血液凝固異常（出血傾向）の症状がある人では、出血傾向を悪化させるおそれがある。

- 1 トラネキサム酸
- 2 プロメライン
- 3 塩酸エチルシステイン
- 4 ヒベンズ酸チペピジン
- 5 メキタジン

問24

次の表は、あるかぜ薬に含まれる成分の一覧である。

成人1日量（9錠中）	
フマル酸クレマスチン	1.34 mg
塩化リゾチーム(リゾチーム)	60 mg(力価)
アセトアミノフェン	900 mg
リン酸ジヒドロコデイン	24 mg
ノスカピン	36 mg
dl-塩酸メチルエフェドリン	60 mg

このかぜ薬に含まれる成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a フマル酸クレマスチンは、抗ヒスタミン成分であり、くしゃみや鼻汁を抑えることを目的として、かぜ薬に配合されるが、服用によって眠気が促されることがあるため、注意が必要である。
- b 塩化リゾチームは、鼻粘膜や喉の炎症を生じた組織の修復に寄与するほか、痰の粘りけを弱める作用を示すとされるが、鶏卵アレルギーがある人では、使用を避ける必要がある。
- c ノスカピンは、咳を抑えることを目的とする成分であり、モルヒネと同じ基本構造を持つため、依存性がある。
- d dl-塩酸メチルエフェドリンは、抗コリン作用によって鼻汁分泌やくしゃみを抑えることを目的として、かぜ薬に配合されるが、依存性があるため注意が必要である。

- 1 (a、 b) 2 (b、 c) 3 (c、 d) 4 (a、 d)

問 25

解熱鎮痛薬に関する記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。なお、3箇所の(a)(b)内はどちらもそれぞれ同じ字句が入る。

(a)は、(b)系と呼ばれる解熱鎮痛成分であり、解熱や鎮痛の作用が比較的強いが、抗炎症作用は弱いとされ、他の解熱鎮痛成分と併せて配合される。

1960年代半ばまでは(a)以外の(b)系解熱鎮痛成分も、一般用医薬品のかぜ薬や解熱鎮痛薬に配合されていたが、ショック等の副作用が頻発したために用いられなくなり、現在では、(a)が一般用医薬品で唯一の(b)系解熱鎮痛成分となっている。

	a	b
1	アスピリン	ピリン
2	サザピリン	ピリン
3	サザピリン	サリチル酸
4	イソプロピルアンチピリン	ピリン
5	イソプロピルアンチピリン	サリチル酸

問 26

眠気を促す薬に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 抗ヒスタミン成分を主薬とする催眠鎮静薬は、一時的な睡眠障害の緩和に用いられるものであり、慢性的に不眠症状がある人を対象としたものではない。
- 2 プロムワレリル尿素は、痛みを感じる感覚を過敏にする作用を示すので、プロムワレリル尿素を含む医薬品を解熱鎮痛薬と併用する場合には、注意が必要である。
- 3 柴胡加竜骨牡蛎湯さいこかりゅうこつぼれいとうは、心身が疲れ弱って眠れない人に適すとされるが、胃腸の弱い人、下痢又は下痢傾向のある人では、消化器系の副作用が現れやすい等、不向きとされている。
- 4 神経の興奮・緊張を和らげる作用を期待してチョウトウコウ、サンソウニン等の生薬成分を組み合わせで配合されている製品があり、これらの生薬成分のみからなる鎮静薬は、通常、長期連用する必要がある場合に用いられる。

問 27

カフェインに関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a カフェインには、反復して摂取すると習慣になりやすい性質があることが知られている。
- b カフェインは、お茶などの食品として日常的に摂取する可能性のあるものであるため、カフェインを含有する眠気防止薬を長期間服用しても問題はない。
- c 妊娠中にカフェインを含有する医薬品を使用すると、胎児の心拍数が低下するため、注意が必要である。
- d カフェインは、胃液の分泌を亢進させる作用のほか、心筋を興奮させる作用があるため、胃潰瘍の診断を受けた人及び心臓病の診断を受けた人は、服用を避ける必要がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	正	誤	誤
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤

問 28

めまい及びその治療薬に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 塩酸ジフェニドールは、テオクル酸ジフェンヒドラミンの一般名で、専ら鎮暈薬に配合される成分である。
- b めまいは、体の平衡を感知して、保持する機能（平衡機能）に異常が生じて起こる症状であり、様々な要因により引き起こされる。
- c キサンチン系成分であるジメンヒドリナートは、中枢に作用して脳に軽い興奮を起こさせ、平衡感覚の混乱によるめまいを軽減させる。
- d 鎮暈薬に配合される医薬品成分のうち、抗コリン作用を有する成分は、中枢に作用して自律神経系の混乱を軽減させるとともに、末梢では消化管の緊張を低下させる作用を示す。

1 (a , b) 2 (a , c) 3 (b , d) 4 (c , d)

問 29

咳^{せき}や痰^{たん}が生じる仕組みに関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 咳^{せき}は、気管や気管支に何らかの異変が起こったときに、その刺激が中枢神経系に伝わり、延髄^{ずい}にある咳嗽^{がいそう}中枢の働きによって引き起こされる反応である。
- 2 呼吸器官に感染を起こしたときやタバコを吸いすぎたときなどには、気道粘膜からの粘液分泌が減少し、気道に入り込んだ異物等を排除しにくくなる。
- 3 痰^{たん}が気道粘膜上に滞留すると呼吸の妨げとなるため、反射的に咳^{せき}が生じて痰^{たん}を排除しようとする。
- 4 気道粘膜に炎症を生じると、咳^{せき}が誘発されるほか、気管や気管支が収縮して喘息^{ぜん}を生じることがある。

問 30

鎮咳^{がい}去痰^{たん}薬に関する記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

鎮咳^{がい}去痰^{たん}薬は、咳^{せき}を鎮める成分、気管支を拡げる成分、痰^{たん}の切れを良くする成分等を組み合わせて配合されている。気管支を拡げる成分として(a)、気道粘膜からの分泌促進により痰^{たん}の切れを良くする成分として(b)などがある。

- | a | b |
|---------------|-------------|
| 1 塩酸トリメトキノール | 塩化セチルピリジニウム |
| 2 塩酸トリメトキノール | 塩酸プロムヘキシシ |
| 3 塩化セチルピリジニウム | 塩酸トリメトキノール |
| 4 塩化セチルピリジニウム | 塩酸プロムヘキシシ |
| 5 塩酸プロムヘキシシ | 塩酸トリメトキノール |

問 31

次の鎮咳去痰薬に配合される生薬成分のうち、アドレナリン作動成分と同様の作用を示すものはどれか。

- 1 カンゾウ
- 2 マオウ
- 3 シャゼンソウ
- 4 キキョウ
- 5 セネガ

問 32

口腔咽喉薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a トローチ剤やドロップ剤は、有効成分が口腔内や咽頭部に行き渡るよう、口中に含み、嚥まずにゆっくり溶かすようにして使用することが重要である。
- b 噴射式の液剤は、軽く息を吐いたり、声を出しながら噴射することが望ましい。
- c 含嗽薬は、用時水で希釈又は溶解して使用するものが多いが、調製した濃度が濃すぎても薄すぎても効果が十分得られない。
- d 口腔咽喉薬は、口腔内や咽頭における局所的な作用を目的とする医薬品であるが、成分の一部が吸収されて、全身的な影響を生じることがある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問 33

胃の薬に配合される成分とその成分を配合する目的との組み合わせとして、最も適切なものはどれか。

- | | | | |
|---|---------------|---|------------------------|
| 1 | スクラルファート | - | 蛋白質の分解に働く酵素を補い、消化を助ける。 |
| 2 | プロザイム | - | 胃粘膜を覆って胃液による消化から保護する。 |
| 3 | グリチルリチン酸ナトリウム | - | 胃粘膜の炎症を和らげる。 |
| 4 | テプレノン | - | 胃液の分泌を促進する。 |
| 5 | 塩酸セトラキサート | - | 胃液の分泌を抑える。 |

問 34

次の表は、ある制酸薬に含まれる成分の一覧である。

3包(3.84g)中	
銅クロロフィリンカリウム	120 mg
無水リン酸水素カルシウム	1020 mg
沈降炭酸カルシウム	1020 mg
水酸化マグネシウム	960 mg
ロートエキス3倍散	90 mg

この制酸薬に含まれる成分に関する記述の正誤について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 銅クロロフィリンカリウムは、胆汁の分泌を促す作用により消化を助ける効果を期待して用いられるが、肝臓病の診断を受けた人では、かえって症状を悪化させるおそれがある。
- b 沈降炭酸カルシウムは、無機塩類を含む医薬品成分であるため、腎臓病の診断を受けた人が使用する場合には、事前に医師等に相談をすることが望ましい。
- c 無水リン酸水素カルシウムは、制酸薬に配合されるほか、腸管内の異常発酵等によって生じた有害な物質を吸着させることを目的として止瀉薬に配合されることがある。
- d ロートエキスを含む医薬品の使用上の注意として、心臓病や緑内障の診断を受けた人では、その症状を悪化させるおそれがあるため、事前に医師等に相談をすることが望ましい。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問 35

胃の薬に関する記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。
なお、2箇所の(a)内はどちらも同じ字句が入る。

胃液の分泌は、(a)神経からの刺激によって亢進することから、過剰な胃液の分泌を抑える作用を期待して、(a)神経の伝達物質である(b)の働きを抑える塩酸ピレンゼピン等が配合されている場合がある。

- | | a | b |
|---|-----|----------|
| 1 | 交感 | アドレナリン |
| 2 | 交感 | ノルアドレナリン |
| 3 | 交感 | アセチルコリン |
| 4 | 副交感 | アドレナリン |
| 5 | 副交感 | アセチルコリン |

問 36

腸の薬（整腸薬、止瀉薬、瀉下薬）に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 生菌成分が配合された整腸薬に、腸内殺菌成分が配合された止瀉薬が併用された場合、生菌成分の働きが腸内殺菌成分によって弱められることがある。
- b 腸内細菌によって分解を受けて作用する成分が配合された瀉下薬に、生菌成分が配合された整腸薬を併用すると、瀉下作用が強くなり、副作用を生じやすくなるおそれがある。
- c 浣腸薬は、便秘の場合に排便を促すことを目的として、直腸内に適用される医薬品であるため、妊婦又は妊娠していると思われる女性に対して適するとされている。
- d 刺激性瀉下成分を主体とする瀉下薬を繰り返し使用すると、腸管の感受性が高まり、効果が強く現れやすくなるため、漫然と継続使用することは望ましくない。

- 1 (a、b) 2 (b、c) 3 (c、d) 4 (a、d)

問 37

次の記述により示される駆虫成分として、正しいものはどれか。

回虫の自発運動を抑える作用を示し、虫体を排便とともに排出させることを目的として用いられる。肝臓病の診断を受けた人では、肝障害を悪化させるおそれがあるほか、服用後、一時的に物が黄色く見えたり、耳鳴り、口渇が現れることがある。

- 1 パモ酸ピルビニウム
- 2 マルツエキス
- 3 カイニン酸
- 4 サントニン
- 5 塩酸ピレンゼピン

問 38

動悸や息切れを生じる原因及び強心薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 動悸や息切れは、睡眠不足等による心臓の働きの低下のほか、精神的な要因やホルモンバランスの乱れなどによって起こることがある。
- b 強心薬は、心臓の働きを整えて、動悸や息切れ等の症状の改善を目的とする医薬品であり、代表的な配合成分として、センソやロクジョウ等が用いられる。
- c 強心薬について、一般に、5～6日間使用して症状の改善がみられない場合には、心臓以外の要因が考えられるので、強心薬を使用した人の状況に応じて、適宜、医療機関の受診を勧奨することが重要である。
- d ゴオウは、ウシ科のウシの胆嚢中に生じた結石を用いた生薬で、強心作用のほか、末梢血管の拡張による血圧降下、興奮を鎮める等の作用があるとされており、強心薬のほか、小児鎮静薬に配合されることがある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問 39

コレステロール及び高コレステロール改善薬に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a コレステロールは水に溶けやすい物質であり、血液中では血漿^{しょうたん}蛋白質^{しょうたん}となって存在する。血液中の血漿^{しょうたん}蛋白質^{しょうたん}が増加すると、心臓病や肥満、動脈硬化症等の生活習慣病につながる危険性が高くなる。
- b 高コレステロール改善薬は、結果として生活習慣病の予防につながるものであるが、腹囲を減少させるなどの痩身^{そう}効果を目的とする医薬品ではない。
- c 血中コレステロール異常の改善のためには、生活習慣の改善が図られることが重要であり、高コレステロール改善薬の使用による対処は、食事療法、運動療法^{しび}の補助的な位置づけである。
- d 血中コレステロール異常に伴って、手足の冷え、痺^{しび}れ等の末梢血行障害を生じることがあり、高コレステロール改善薬には、こうした症状の緩和を目的として、ソイステロールのようなビタミン成分が配合されることがある。

1 (a、 b) 2 (b、 c) 3 (c、 d) 4 (a、 d)

問 40

貧血用薬に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 鉄分の吸収は空腹時のほうが低く、消化器系への副作用を軽減するためにも、貧血用薬（鉄製剤）は、食後に服用することが望ましい。
- 2 マンガンは赤血球ができる過程で必要不可欠なビタミンCの構成成分であり、骨髓^{ずい}での造血機能を高める目的で、貧血用薬に硫酸マンガンが配合されている場合がある。
- 3 服用の前後30分にコーヒーや緑茶等のタンニン酸を含む飲食物を摂取すると、鉄の吸収がよくなることもあり、鉄分の過剰摂取となることがあるので、服用前後はそれらの摂取を控えることとされている。
- 4 一般用医薬品の貧血用薬（鉄製剤）によって改善を図ることができるのは、鉄不足によって貧血症状が生じている鉄欠乏性貧血のみである。

問 41

痔疾用薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 外用痔疾用薬は局所に適用されるものであるが、坐剤及び注入軟膏では、全身的な影響を生じることがある。
- b 外用痔疾用薬には、痔による肛門部の炎症や痒みを和らげる成分として、ステロイド性抗炎症成分である塩酸テトラヒドロゾリンが配合されていることがある。
- c 内用痔疾用薬は、比較的緩和な抗炎症作用、血行改善作用を目的とする成分のほか、瀉下・整腸成分等が配合されたものである。
- d 外用痔疾用薬には、局所麻酔成分としてリドカインが配合されることがある。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

問 42

痔疾用薬に関する記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

外用痔疾用薬には、アドレナリン作動成分の(a)が(b)効果を期待して配合されていることがある。高齢者では心臓病等の基礎疾患がある場合が多く、一般的に血圧(c)や血糖値上昇を招きやすいので、アドレナリン作動成分を含有する外用痔疾用薬を使用する場合にその適否を十分考慮し、慎重な使用がなされることが重要である。

	a	b	c
1	塩酸ナファゾリン	止血	上昇
2	酢酸ヒドロコルチゾン	抗炎症	上昇
3	塩酸ナファゾリン	抗炎症	低下
4	塩酸クロルヘキシジン	止血	低下
5	酢酸ヒドロコルチゾン	止血	低下

問 43

内用痔疾用薬の配合成分とその主な作用との関係として、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 酢酸トコフェロール 組織修復を目的とする。
- b カイカ 止血を目的とする。
- c オウゴン 炎症を和らげる。
- d カルバゾクロム 炎症を和らげる。

1 (a、 b) 2 (b、 c) 3 (c、 d) 4 (a、 d)

問 44

婦人薬に配合される成分とその主な作用の関係の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a サフラン 鎮静、鎮痛を目的とする。
- b トウキ 冷え症の改善を目的とする。
- c コハク酸トコフェロール 血行を促進する。
- d アミノエチルスルホン酸 炎症を和らげる。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	正	誤	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	正	正	正	誤
5	誤	正	正	正

問 45

アレルギー用薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 抗ヒスタミン成分として配合されるメキタジンは、まれに重篤な副作用として肝機能障害や血小板減少を生じることがある。
- b 抗ヒスタミン成分は、ヒスタミンの働きを抑える作用以外に、交感神経系の働きを抑える抗コリン作用を示す。
- c アレルギー用薬には、鼻炎用内服薬で鼻汁分泌やくしゃみを抑えることを目的として、ベラドンナ総アルカロイドが配合されることがある。
- d アドレナリン作動成分として配合される塩酸ピリドキシンは、自律神経系を介した副作用として、めまいや頭痛、排尿困難が現れることがある。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

問 46

鼻炎用点鼻薬に配合されるクロモグリク酸ナトリウムに関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 交感神経系を刺激して鼻粘膜を通っている血管を収縮させることにより、鼻粘膜の充血や腫れを和らげるアドレナリン作動成分である。
- 2 アレルギー性でない鼻炎や副鼻腔炎^{くう}に対しては無効であるため、アレルギーによる症状か他の原因による症状かはっきりしない人には、使用する前にその適否を専門家に相談することが望ましい。
- 3 医療機関において減感作療法等のアレルギーの治療を受けている人では、その妨げとなるおそれがあるので、使用前に治療を行っている医師又は処方薬の調剤を行った薬剤師に相談がなされることが望ましい。
- 4 まれに重篤な副作用として、アナフィラキシー様症状を起こすことがある。

問 47

点眼薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 点眼薬は、結膜囊^{のう}に適用するものであるため、通常、製造後に消毒されている。
- b 点眼の際に容器の先端が眼瞼^{けん}（まぶた）や睫毛^{しやう}（まつげ）に触れると、雑菌が薬液に混入して汚染を生じる原因となるため、触れないように注意しながら1滴ずつ正確に点眼する。
- c 点眼薬は一般的に、一度に何滴も点眼しても効果が増すわけではなく、むしろ鼻粘膜^{のど}や喉から吸収されて、副作用を起こしやすくなる。
- d 点眼後は、数秒間、眼瞼^{けん}（まぶた）を閉じて、薬液を結膜囊^{のう}内に行き渡らせる。その際、目尻を軽く押さえると、薬液が鼻腔^{くう}内へ流れ込むのを防ぐことができ、効果的とされている。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

問 48

眼科用薬に配合される医薬品に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 アドレナリン作動成分が配合されている場合、緑内障と診断された人に対して、眼圧の低下をまねき、緑内障を悪化させたり、その治療を妨げるおそれがある。
- 2 イブシロン-アミノカプロン酸は、炎症物質の生成を抑える作用を示し、目の炎症を改善する効果を期待して用いられる。
- 3 コンドロイチン硫酸ナトリウムは、コリンエステラーゼの働きを抑える作用を示し、目の調節機能を改善する効果を目的として用いられる。
- 4 細菌感染による結膜炎やものもらいなどの化膿^{のう}性の症状の改善を目的として配合されるサルファ剤は、すべての細菌及び真菌の感染に対する効果があるため、症状の改善がみられない場合でも、続けて使用することが望ましい。

問 49

外皮用薬の注意点に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 外皮用薬の副作用として、適用部位に発疹しんが現れることがあるが、痒みかゆが出ることはない。
- b 表皮の角質層が柔らかくなることで有効成分が浸透しやすくなることから、外皮用薬は入浴後に用いるのが効果的とされる。
- c 外皮用薬の副作用は、外皮用薬が適応とする症状と容易に区別がつく。
- d 外皮用薬を一定期間使用して症状の改善がみられない場合には、漫然と使用を継続することなく、副作用の可能性も考慮して、専門家に相談がなされることが重要である。

1 (a、 b) 2 (a、 c) 3 (b、 d) 4 (c、 d)

問 50

次の記述により示される殺菌消毒薬の成分として、正しいものはどれか。

成分の酸化作用により、結核菌を含む一般細菌類、真菌類、ウイルスに対して殺菌消毒作用を示す。殺菌力はアルカリ性になると低下するため、石鹼けん等と併用する場合には、石鹼分けんをよく洗い落としてから使用することが望ましい。

外用薬として用いた場合でも、まれにショック（アナフィラキシー）やアナフィラキシー様症状のような全身性の重篤な副作用を生じることがある。この成分に対するアレルギーの既往症がある人では、使用を避ける必要がある。

- 1 アクリノール
- 2 オキシドール
- 3 ヨードチンキ
- 4 塩化ベンザルコニウム
- 5 消毒用エタノール

問 51

一般的な創傷への対応に関する記述について、誤っているものはどれか。

- 1 出血しているときは、創傷部に清潔なガーゼやハンカチ等を当てて5分間程度圧迫を続け、止血する。
- 2 軽症の火傷（熱傷）の場合は、できるだけ早く、水道水などで熱傷部を冷やすことが重要であり、痛みを感じなくなるまで冷やすことで、症状の悪化を防ぐことができる。
- 3 創傷面が汚れているときには、水道水などきれいな水でよく洗い流し、汚れた手で直接触れないようにすることが望ましい。
- 4 創傷部に殺菌消毒薬を繰り返し適用し、皮膚常在菌を殺菌することで、状態を改善させる。

問 52

外皮用薬に配合される^{かゆ}痒み、^は腫れ、痛み等を抑える成分に関する記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

副腎皮質ホルモンと共通する化学構造を持つ化合物が、ステロイド性抗炎症成分として用いられ、主なステロイド性抗炎症成分として、(a) 吉草酸酢酸プレドニゾロン等がある。

これに対し、副腎皮質ホルモンと共通する化学構造を持たず、抗炎症作用を示す成分を、非ステロイド性抗炎症成分といい、(b) インドメタシン等がある。

- | a | b |
|-------------|-----------|
| 1 デキサメタゾン | ウフェナマート |
| 2 塩酸ジブカイン | ヒドロコルチゾン |
| 3 ウフェナマート | ヒドロコルチゾン |
| 4 ブフェキサマク | 酢酸プレドニゾロン |
| 5 酢酸プレドニゾロン | レゾルシン |

問 53

歯痛・歯槽膿漏薬に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 外用薬の場合、歯痛薬、歯槽膿漏薬のいずれについても、口腔内を清浄にしてから使用することが重要である。
- 2 歯痛薬には、歯の齶蝕により露出した知覚神経の伝達を遮断して痛みを鎮めることを目的として、局所麻酔成分のフェノールが用いられることがある。
- 3 歯槽膿漏薬の使用により症状を抑えられても、しばらくすると症状が繰り返し現れるような場合には、医療機関を受診することが望ましい。
- 4 内服で用いる歯槽膿漏薬には、止血成分として、フィトナジオンが配合されている場合がある。

問 54

歯や口中に用いる薬に配合される成分とその主な作用の関係の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- | | | |
|---|----------------|---------------------|
| a | グルコン酸クロルヘキシジン | 鎮静、鎮痛を目的とする。 |
| b | テーカイン | 知覚神経の伝達を遮断して痛みを鎮める。 |
| c | アズレンスルホン酸ナトリウム | 細菌の繁殖を抑える。 |
| d | シコン | 組織修復を促進する。 |

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

問 55

次の滋養強壮保健薬に配合されるビタミン成分に関する記述について、()に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

ビタミン成分等は、多く摂取したからといって適用となっている症状の改善が早まるものではなく、むしろ(a) ビタミンでは過剰摂取により過剰症を生じるおそれがある。

(b) は、腸管でのカルシウム吸収及び尿細管でのカルシウム再吸収を促して、骨の形成を助ける栄養素である。

	a	b
1	水溶性	ビタミンE
2	脂溶性	ビタミンD
3	脂溶性	ビタミンE
4	水溶性	ビタミンD
5	水溶性	ビタミンC

問 56

消毒薬等の誤用・事故等による中毒への対処に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 消毒薬を誤って飲み込んだり、目に入ったり、皮膚に付着したりした場合、応急処置の後、すみやかに医療機関を受診することが望ましい。
- 2 消毒薬を誤って飲み込んだ場合、一般的な家庭における応急処置として、通常は多量の牛乳などを飲ませるが、手元に何も無いときは、まず水を飲ませる。なお、消毒薬の濃厚液を飲み込んだ場合、自己判断で安易に吐き出させることは避ける。
- 3 誤って目に入った場合、流水で十分に洗眼する。水流が強いと目に障害を起こすことがある。
- 4 酸が誤って皮膚に付着した場合、急いでアルカリで中和し、刺激を和らげる必要がある。その後、着衣をとり、流水で十分に水洗する。

問 57

次の記述により示される生薬成分として、正しいものはどれか。

マメ科のクズの根を用いた生薬で、解熱、鎮^{けい}痙等の作用を期待して用いられる。

- 1 オウゴン 2 サンシシ 3 ブクリョウ 4 カッコン 5 ブシ

問 58

漢方処方製剤及び生薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 漢方処方製剤は、個々の薬理作用を主に考えて生薬成分を組み合わせて配合された医薬品で、生薬製剤は、使用する人の体質や症状その他の状態に適した処方を既成の処方の中から選択して用いられる。
- b 漢方処方製剤は、用法用量において適用年齢の下限が設けられていない場合であっても、生後3ヶ月未満の乳児には使用しないこととされている。
- c 生薬は、薬用部位とその他の部位、又は類似した基原植物を取り違えると、期待する効果が得られないことがある。
- d 漢方処方製剤においても、患者の証（体質及び症状）に適さない漢方処方製剤が使用されたために症状の悪化や副作用が起こることがある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問 59

衛生害虫に関する記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

(a) は、吸血によって痒みを引き起こすほか、日本脳炎、マラリア、黄熱、デング熱などの重篤な病気を媒介する。

(b) は、ネズミを宿主として移動し生息場所を広げていく。吸血による刺咬のため激しい痒みを生じ、発疹熱などのリケッチア、ペスト等を媒介する。

	a	b
1	蚊	イエダニ
2	ノミ	シラミ
3	蚊	ツツガムシ
4	イエダニ	ノミ
5	ツツガムシ	トコジラミ

問 60

妊娠検査薬に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 検体としては、尿中のヒト絨毛性性腺刺激ホルモン (h C G) が検出されやすい早朝尿 (起床直後の尿) が向いており、尿が濃すぎる場合であっても必ず正確な結果を得ることができる。
- b 尿中 h C G の検出反応は、h C G と特異的に反応する抗体や酵素を用いた反応であり、温度の影響を受けることはない。
- c 採取した尿を放置すると、雑菌の繁殖等によって尿中の成分の分解が進み、検査結果に影響を与えるおそれがある。
- d 絨毛細胞が腫瘍化している場合には、妊娠していなくても h C G が分泌され、検査結果が陽性となる場合がある。

- 1 (a、b) 2 (b、c) 3 (c、d) 4 (a、d)